

2005.1.30 馬場小室山と出会うミニ・エクスカーショ

旧三室村北西部の史跡案内

神明宮	現在の東宿にあった神社であったが、明治40年に氷川女体神社へ合祀と（伊勢山神明宮）になった。 これは、神社の再編成であり小室社など沢山の神社が氷川神社に統合された。 その前は、徳川家光から10石を受けていた（神主は武笠典膳）1593年に建てられた。 説明の碑があり、それは武笠三の書である。	
東漸寺	三室小学校の発祥の地で、明治40年ごろまではここが小学校であった。室町から鎌倉にかけての寺で、1591年の三室村検地帳にものっている。 現在はお堂のみ残っているが、そこにかかっている「鰐口」(仏堂や神殿の前に掛け、吊した綱でうちならす・中世金工品としてめずらしい)が有名で、市指定有形文化財に指定されている。	
小室社	小室社のある位置は「馬場小室山遺跡」として縄文の遺跡が出土されたところである。 また、明治40年に氷川女体神社に合祀され祭神も奇稻田姫命で氷川女体神社と同じである。 この中には、奇稻田姫命や伊佐之男命などの額5枚がある。	
文殊寺	もとは、氷川女体神社の社僧が住んでいた別当寺（僧職の他に神職を兼ねること）で、神社の南側にあったが、明治に入り、神仏分離で現在の場所に移った「知恵の分殊」で知られる文殊菩薩や、幕末の大絵馬があり、市指定有形民俗文化財になっている。 また、三室は江戸時代から連歌や俳諧が盛んで、三室に生まれ育ち、北原白秋に師事したという歌人星野丑三氏の歌碑が建っている。 （追ふがごとく追はるるときわれの生にみどりあふるる今日の日に遭う）	

